

中期計画

取 組 み 項 目	目 標			
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
＜環境マネジメント部会＞				
1. 環境マネジメントの充実				
1)ISO14001:継続的改善活動推進	活動の継続 ISO 14001の継続的改善活動実施			
2)地域・社会との環境保全活動				
①地域イベントへの参画	5項目実施	5項目実施	←	←
②水質汚濁物質排出管理	測定・届出実施		年4回の測定実施	
③大気汚染物質排出量の監視・測定	監視・測定実施		監視・測定実施	
3)情報公開				
①ホームページ掲載	22/7掲載	2021/7掲載	2022/7掲載	2023/7掲載
②環境保全コストの把握	73,423千円		実績継続把握	
2. オフィスにおける環境保全活動				
1)グリーン購入の促進				
グリーン購入対象品の購入	291千円	グリーン購入対象品の購入実績継続把握		
＜省資源・リサイクル部会＞				
1. 省資源・リサイクルの推進				
1)廃棄物量低減(5Rの推進)	22年度前提条件:2022年1月～2月の廃棄物量実績			
①廃棄物低減推進会活動の定着化	から、車種毎に原単位を設定する。			
②省資源・埋立ゼロ化実現のための5R継続改善	0.451Kg/台	0.455Kg/台	毎年設定	毎年設定
	(車種合計、年合計目標)			
2. 埋立廃棄物ゼロ化推進				
1)埋立廃棄物ゼロ化	2005年度(4.37t)を基準に低減			
①処理方法の継続改善・開発	2.8%	44.5%以下	43.5%以下	42.5%以下
2)再資源化率向上	当年度廃棄物量を基準に向上			
①分別処理の徹底および定着化	99.99%	99.8%以上	99.8%以上	99.8%以上
②中間処理の拡大				
＜地球温暖化防止部会＞				
1. CO2排出抑制(TON-CO2)				
1)省エネ推進(電気、LPG、灯油)	2005年度実績(1.702)を基準に2023年度までに△23%低減			
(原単位:Kg-CO2/個)	1.576	1.328	1.311	1.291
2)水資源の有効活用	2005年度実績(8.125)を基準に2023年度までに△23%低減			
(原単位:g-CO2/労働時間H)	2.950	6.338	6.256	6.175
2. 環境負荷物質の低減				
1)フロン排出抑制	R-12は04年度にて全廃・更新済み			
①特定フロンR-22:8台				
②代替フロンR-22:31台	21/31	21/21	21/21	21/21
ドライヤーは老朽時に更新				
エアコンは故障時に更新:47台				
2)VOC排出抑制(TON)	2005年度実績を基準に低減			
①溶剤使用量の低減	(原単位:Kg/m ²)			
②水性塗料採用の検討	0.518	0.500	0.500	0.500
3)PRTR対象物質低減(TON)	2005年度実績を基準に低減			
①トルエン、キシレン等5種の使用量低減	(原単位:Kg/m ²)			
②PRTR対象外物質へ変更	0.254	0.327	0.327	0.327

環境マネジメント部会活動

Part1

☆地域・社会との環境保全活動☆

地域住民の方々との環境に関する交流活動

地域・社会との環境保全活動として、2006年～**2021年度**は次の行事を通じて地域の方々との環境交流をはかりました。

- ①おかやまアダプト
- ②環境フォーラム参加(②③はコロナで中止)
- ③地元主催のフリーマーケットへの参加
- ④船穂中学校2年生職場体験環境PR
- ⑤市環境衛生協議会の緑化推進行事
- ⑥電気自動車の活用拡大

- ②環境フォーラムinふなほ(2007年度～)
- ③フォーラム内でフリーマーケットへの出品



ポスター・標語
掲示

PHEV車・
アウトランダー展示



フリーマーケット
出品

毎年開催される『環境フォーラムinふなほ』に継続参加。その中で省エネ標語・ポスターや電気自動車i-Mievを展示。また、地元主催のフリーマーケットへも商品を提供し、次世代を担う子供たちにも楽しみながら環境の意識が高められるイベントとなっています。

⑥電気自動車の増台(省エネ・大気汚染防止)



**2021年度では電気自動車・PHEVの
新たな購入はありませんでした。
《合計5台の電気自動車・PHEV車を効率的に活用》**

これからの活動

2022年度も、岡山県主催の事業『おかやまアダプト』を継続して活動します。
これは道路や河川など一定区画を住民や企業によって、愛情と責任を持って清掃する事業です。
当社は、高梁川土手上の道路周辺を担当し、看板も設置していただいています。
また 倉敷市の環境衛生協議会が主催する『ふなほ町 環境フォーラム』、『緑化推進事業』、『フリーマーケット』
へも2007年から参加するなど、これからも多くの行事に参加し、地域住民の方々と楽しく、なごやかに、
環境に関する交流活動を行っていきます。



①おかやまアダプト(継続活動)



年4回の
清掃活動中

④船穂中学校生職場体験(継続活動)



船穂中学校の生徒が進路学習の一環として職場体験に訪れたときには、現場実習の他に廃棄物を減らす方法として、材料分別によるリサイクルなどの取り組みについても説明を行っています。

⑤本社屋上 緑地化(継続活動)



『企業のエコ挑戦』山陽新聞記事掲載(2011年度)

地球温暖化やヒートアイランド現象をはじめとする環境悪化が問題となっており、当社としても様々な取り組みを行っています。その一環として2008年12月に本社工場の屋上へ緑地を設けています。屋上緑化の良い点は、CO2排出量の削減などによる大気の浄化、植物の蒸散作用による周辺の気温上昇抑制、また、植物が太陽熱を遮るために断熱の効果も発揮します。よって空調の稼働率を下げることになり、省エネルギー効果が得られるなど、地球温暖化防止対策として有効とされています。更に倉敷市が緑化・美化推進の目的で花を設置する活動の中で当社も積極的に美化活動に参加しています。

環境マネジメント部会活動

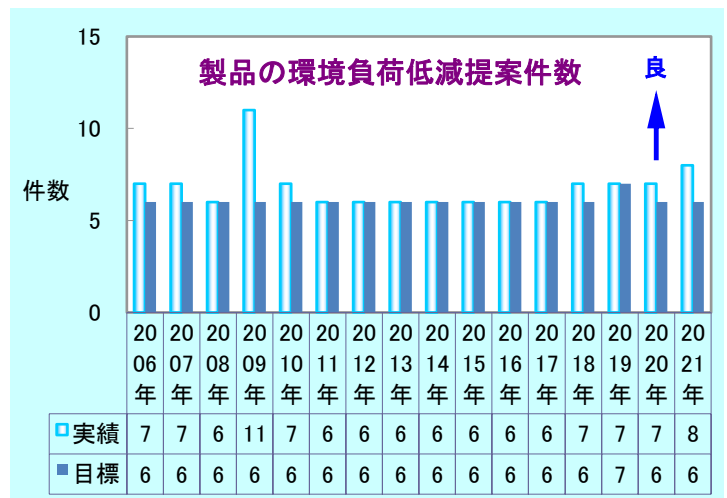
Part2

☆ISO14001の継続的改善活動の推進

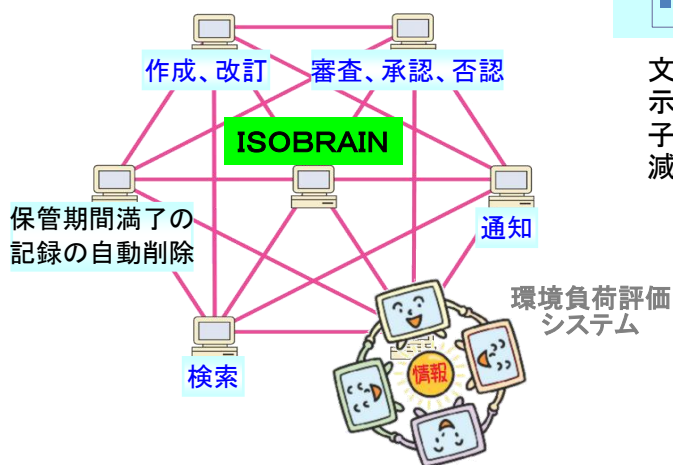
ここでは、主な項目について報告します。部会活動項目は各部会活動で報告します。

製品の環境負荷低減

製品の環境負荷低減は設計開発段階から環境負荷の少ない構造や材料の使用に取組み、環境影響を少なくした製品開発を実現することです。環境負荷低減に大きな効果がありますので、今後も各セクションからアイデアを収集し、積極的に進めていきます。目標は、新規開発車種・グループ毎に設定していますので、年度で多少の増減が生じます。



電子化の推進と活用拡大 (文書・記録の管理システム)

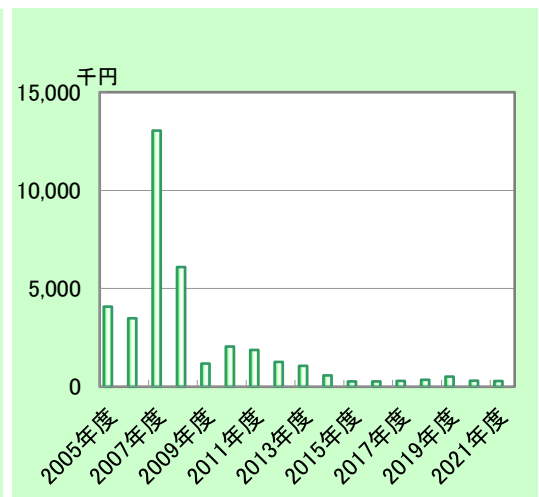
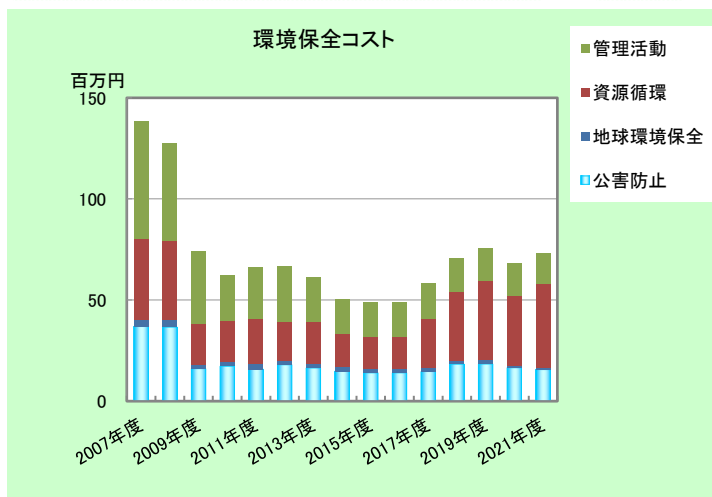


文書・記録の管理、環境負荷評価、部品納入指示データの分譲、各部門ネットワークなどの電子化の推進と活用拡大により、紙の使用量が削減できています。

☆環境保全コストの把握

&

☆グリーン購入額の把握



環境保全コスト、グリーン購入については、2004年度から本格実施とし、2005年度はグリーン購入品を積極的に購入することで購入額を増加しました。また、2007年度は作業服をモデル変更したことでグリーン購入額が増大しています。

省資源・リサイクル部会活動

Part 1

☆省資源・リサイクルの推進

廃棄物量低減：5Rの推進

1. 廃棄物量低減推進会活動

- 1) 自主管理（計量）の推進
- 2) 廃棄物量低減改善活動の推進
- 3) パトロール指摘改善

2. 廃棄物発生量把握改善

- 1) 計量方法の改善
- 2) 払出方法の改善
ミニ分別ステーション拡大
- 3) わかりませんコーナーの活用

3. 省資源・埋立ゼロ化実現のための5R推進

- 1) Reduce：リデュース
廃棄物の発生抑制
- 2) Recycle：リサイクル
原材料として再利用
- 3) Reuse：リユース
部品などの再使用
- 4) Refuse：リフューズ
廃棄物になるものを買わない
- 5) Return：リターン
購入先に返せるものは戻す

2021年度の廃棄物発生量は594.2トンであった。

2018年度から目標値は車種ごとに原単位を設定し、車種ごとのVOLに合わせた原単位平均値で管理することとした。

目標原単位は0.360Kg/台以下に対し
0.341Kg/台と目標は達成した。

活動母体である廃棄物量低減推進会(13名)のメンバーが中心となり改善を積み重ねて廃棄物量低減に努めています。

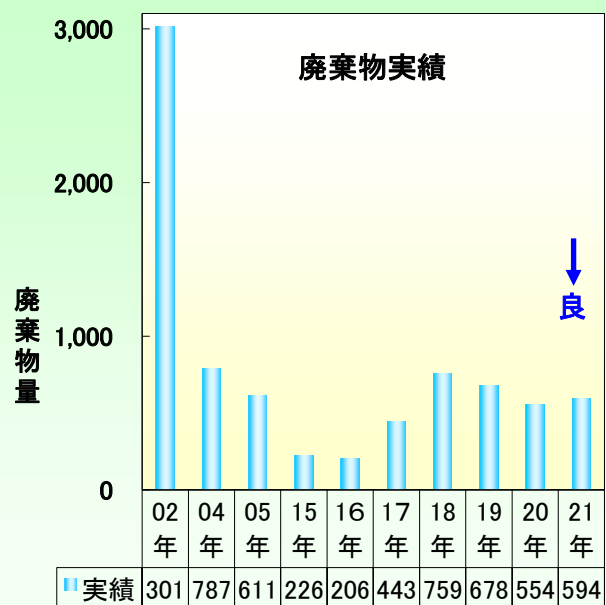
廃棄物低減活動



これからの活動

- ①「もったいない運動」の定着
 - ②チリも積もれば山となるの改善
 - ③さらなる分別の徹底など
- みんなでルールを守り、継続的に改善を行い、「ゼロエミッション」を視野に入れて活動して行きます。

(トン/年)



主な改善内容：2022年度

- ①もったいない運動の推進
- ②歩留り向上の強化
- ③廃棄不良品の撲滅活動
- ④塗料カスの低減活動
- ⑤工法変更による廃棄物量低減ほか

省資源・リサイクル部会活動

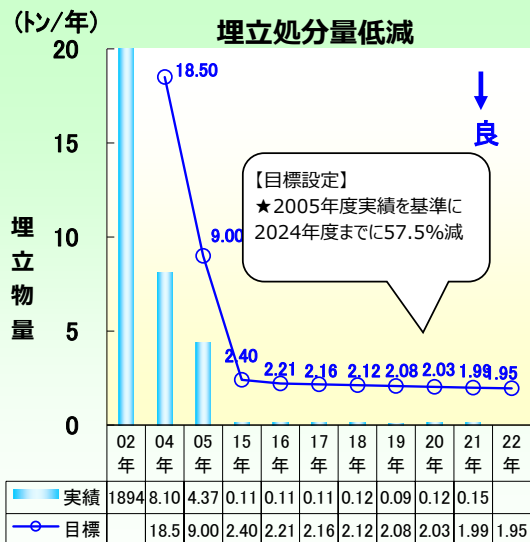
Part 2

☆埋立廃棄物ゼロ化推進

埋立廃棄物ゼロ化

処理方法の改善・開発

- 1) 埋立廃棄物⇒有価物へ…ベスト改善
- 2) 埋立廃棄物⇒マテリアルリサイクルへ…ベター改善
- 3) 埋立廃棄物⇒サーマルリサイクルへ…グッド改善



2021年度の埋立処分量は2005年度実績の△54.5%低減の1.99トンを目標とし活動してきました。結果、0.146トンと目標を達成しました。

2021年度の廃棄物再資源化率は当年度廃棄物量比99.80%以上を目標に活動。結果、99.99%と目標達成しました。

2022年度埋立処分量は2005年度実績の△55.5%低減の1.95トンを目指します。

※2012年度から埋立処分量目標をMMCグループ目標に見直しとしています。

廃棄物再資源化率は横バイの予想ではあるが、2022年度も年0.2%以下を目標に地道な活動を展開し効果を出していきます。

主な活動内容：2022年度

- ①廃棄物払出場への分別払出徹底の管理強化
- ②樹脂類埋立物の有価物化
 - ・混合物の分解分別処理（樹脂・金属等是有価物へ）

これからの活動

これからは埋立処分量0.2%以下（廃棄物再資源化率99.8%以上）を継続する為に、社員一人ひとりにまで埋立ゼロの意識を浸透させ、さらなる分別処理の徹底及び

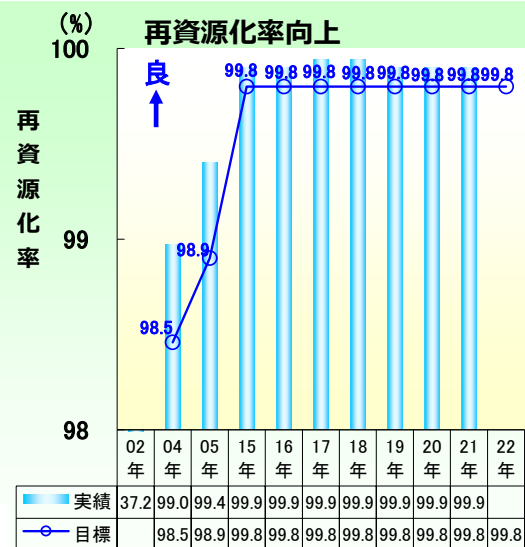
再資源化率の向上

分別処理の徹底

- 1) 有価物
 - 2) マテリアルリサイクル物
 - 3) サーマルリサイクル物
- などに分別を徹底する

中間処理の拡大

- 1) よりベターな処理物になるように手を加える



廃棄物払出場



地球温暖化防止部会活動

Part 1

☆CO2排出抑制



省エネ推進

電気、LPG、灯油、

- 1) 自主管理(計測)の推進
- 2) 使用量低減(改善提案)の抽出
- 3) 省エネパトロール指摘の改善



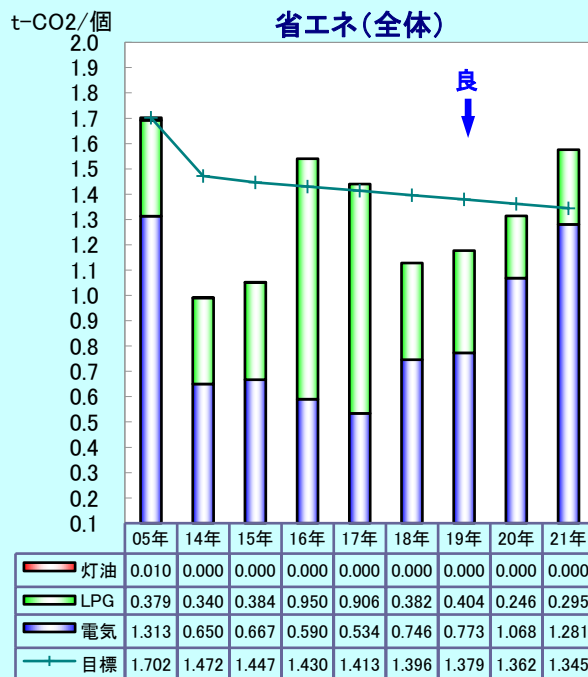
省エネ改善事例

① 本社第二組立工場コンプレッサー更新による省エネ。

【メリット】… △667kwh/月

② 本社成形工場トランス更新による省エネ。

【メリット】… △16.7kwh/月



CO2排出抑制については、社全体を6つのブロックに分け、全体会合として1回/月(2H/回)目標必達に向け改善活動会を行っています。

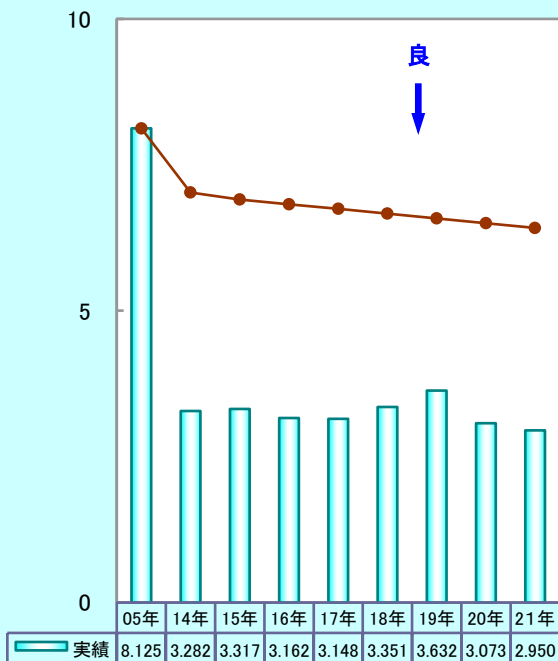
水資源の有効活用

水道水の使用量低減

- 1) 各工程別使用量の把握
- 2) 地下水の有効活用
- 3) 使用量低減(改善提案)の抽出
- 4) パトロール指摘の改善
- 5) 水道水⇒地下水への切替え



g-CO2/労働時間 水資源の有効活用(水道水)



地球温暖化防止部会活動

Part 2



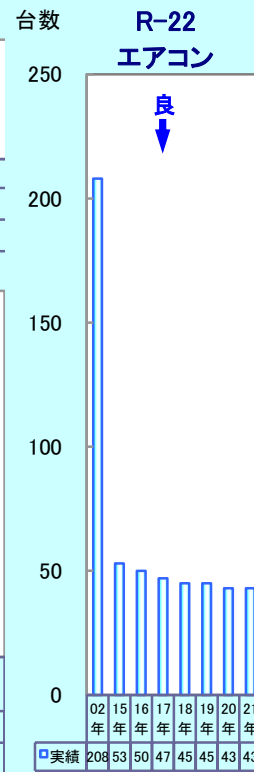
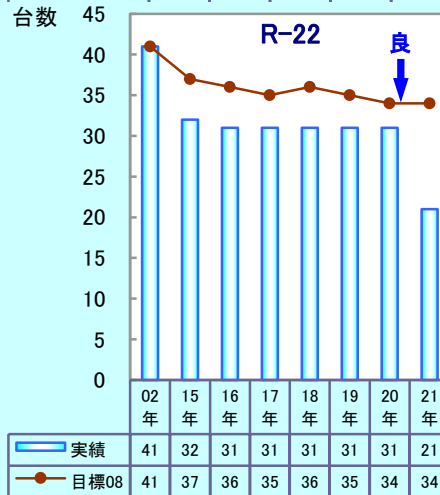
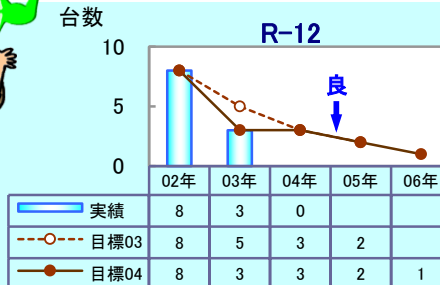
☆環境負荷物質の低減

フロン排出抑制

- 1)コンプレッサーの計画更新
- 2)エアコン故障時の更新

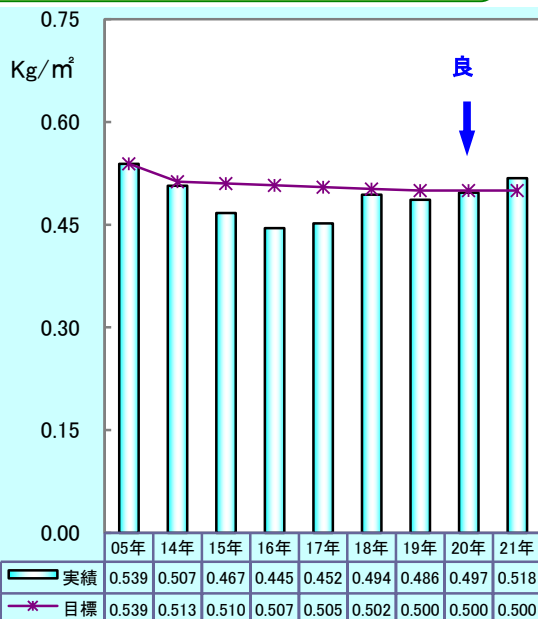
1. R-12(特定フロン)については04年度3台の更新(新冷媒)を行い保有台数は無くなりました。
2. R-22(代替フロン)使用ドライヤーについては老朽更新時には新冷媒タイプを導入する。
3. R-22(代替フロン)使用エアコンについては07年度までに16台更新を行いました。

今後についても老朽更新時は環境に優しい新冷媒 及びフロンレスへの更新を行っていきます。



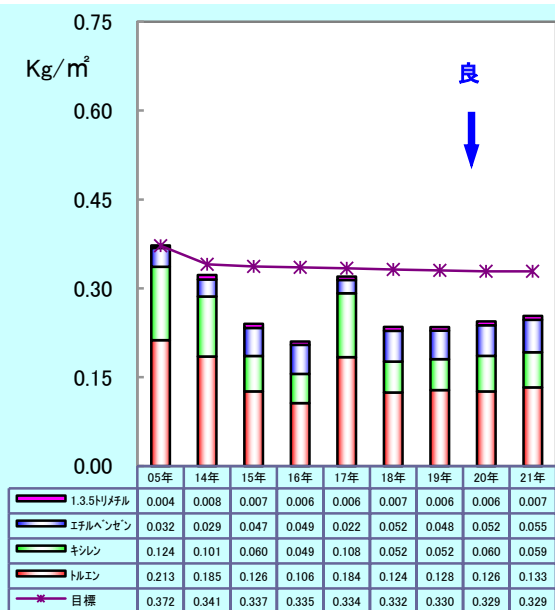
VOC排出抑制

- 1) 溶剤使用量の低減
- 2) 水性塗料採用の検討



PRTR対象物質低減

- 1) トルエン、キシレンの使用量低減
- 2) PRTR対象外物質へ変更



オーバースプレー・色替え回数の低減・金属リサイクル活用などにて「VOC・PRTR」の排出抑制に努めています。

これからの活動

今後としては、ハイソリッド化や環境に優しい「水溶性、PRTR対象物質外物質」等の新塗料の開発等により環境負荷物質排出ゼロ化に向け取り組んでいきます。